

海外交流事業

HABATAKE! 黒陵

第2回派遣報告書



(大学訪問：深圳大学)

行き先 中国・深圳

平成30年3月11日(日)～17日(土)

目次

p 1	校長挨拶
p 2	同窓会長挨拶
p 3	P T A会長挨拶
p 4	行程表
p 4 ~ 1 6	参加生徒報告書
p 1 7	寄付者名簿
p 1 8	研修風景



深圳博物館の前で



第一電材で実習

最後の晚餐

ご 挨拶

校 長 泉 悟

本校では、平成27年度に「ものづくりの聖地・北上地域」の課題を主体的に捉え、高校生の柔軟な発想を活かしながら、グローバルな視点をもって探求・解決するためのアクションを考え、発信することを学ぶことを目的とした「きたかみ世界塾」を立ち上げました。

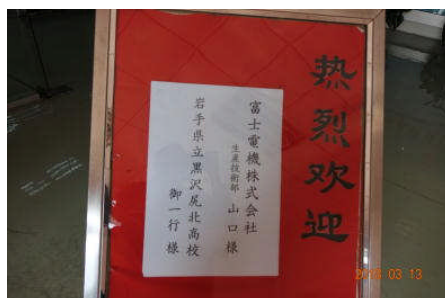
この「きたかみ世界塾」は、総合的な学習の時間を活用し、北上市職員、いわてNPO-**NET**サポートの方々のお力を借りながら、全学年の生徒たちがワークショップ形式で課題に向き合い、取り組んでおります。平成29年5月には、北上市と「きたかみ世界塾」の推進に関する連携協定書を締結し、北上市役所職員の方々のより強力な支援を受けながら、内容を充実させてきております。

それに歩調を合わせる形で、国際的に活躍するグローバルリーダー育成の観点から「**HABATAKE!**黒陵」事業を、平成28年度より同窓会、PTA、地域企業の皆様からご支援をいただき実施しております。昨年度実施した第1回に引き続き、第2回の海外交流事業「**HABATAKE!**黒陵」に、同窓会、PTA、地域企業の皆様からの多大なるご支援を賜り、生徒10名と引率教員1名の合計11名が、充実した研修機会を頂戴しましたことに、厚く御礼と感謝を申し上げます。

今回の研修では、アジア最高レベルの経済先進地の深圳にある、テクノセンターを訪問しました。このテクノセンターは、日本の中小企業が中国へスムーズに進出できる環境が整えられており、現在日本からの進出企業は40社、6000名の方々が働いているとのことで、大変活気にあふれていたようです。時代にあった刻印づくりに挑戦している東京彫刻株式会社をはじめ、久保田有限公司、オプティロム、第一電材を訪問し、先進的な技術力で製品を作っている現場を見学する機会を得、また、世界一のドローン製造会社として有名な**DJI**への訪問、さらに深圳大学でも研修を深めたと聞いております。

今回の研修を通して、参加した生徒は将来への意識の高まりとビジョンが明確になったようで、これらの生徒が核となり、本校の生徒たちへ様々な刺激を与え、刺激を受けた多くの生徒の目が外に向けられ、様々なことに課題意識をもって生活できるようになってほしいと願っています。

同窓会、PTA、地域の方々の多大なるお力添えをいただき、第2回の「**HABATAKE!**黒陵」事業も無事に終わられたことに感謝申し上げますとともに、今後もさらなるご支援をお願い申し上げ、挨拶といたします。有り難うございました。



H A B A T A K E ! 黒陵への思い

同窓会長 伊藤 彬

昨年度創設された「H A B A T A K E 基金」を活用しての第2回の海外交流事業が今年も3月に香港、深圳を訪問してグローバル人材育成事業が実施されました。

昨年も素晴らしい報告会があり短期間とはいえ高校生の成長ぶりはずごとと感心致しました。このような活動の成果が黒陵生の共感を得たのでしょう、今年も多くの応募があり、10名の派遣の選考に苦勞したようです。今年も大きな成果を期待し出発致しました。

活動の内容は報告書に詳細が記載されていますが現地でお世話していただいた関係者の対応も素晴らしかったようであり成果も大きかったようです。皆様に感謝しています。

数年前から始めた「きたかみ世界塾」の授業も北上市役所の若い職員の応援のおかげで黒陵らしい人格形成カリキュラムとしてきっちりと根付いていますし、延長線上のこの事業の関心が強くなっていることに期待感がますます膨らんでいきます。

海外研修を経験された学生はその後の目標が明確化されて進路の選択に活かされているとの報告を戴き、これからの益々の発展が期待されています。

これも多くの同窓生、P T A、市内の企業のご支援のお陰であり心から感謝申し上げます。

黒陵が目指している国際的に活躍出来るグローバル人材の育成を目指しての文部科学省認定のスーパーグローバルハイスクール（S G H）の認定のハードルは高いものですがこのような活用の積み重ねにより実現を目指したいと考えています。

今後もどうぞご支援賜りますようお願い申し上げます。



結団式



HABATAKE!黒陵への囑望

PTA会長 八重樫 敏

PTA 会長の八重樫と申します。平素より当校 PTA に対しましては格段の御理解と御協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。また、「HABATAKE!黒陵」事業がこのように多くの意欲のある生徒さん達と共に活動されておりますことについても、保護者を代表してここから嬉しく思います。

平成 27 年度からスタートした「HABATAKE!黒陵」事業ですが、これまた同時期にスタートした「きたかみ世界塾」事業とともに世界をリードする価値創造型人材育成プログラムとして、本校の教育方針である「人類社会の発展に寄与する人材の育成」を実践するため、ともすれば本来手段に過ぎない「進学」が目的化することなく、生徒一人ひとりがそれぞれの人生の目的を主体的に自覚して高校生活を送るため本校に必要な事業になったことは、我々保護者としても非常に頼もしく思うところです。また、この事業に取り組む過程においては、生徒同士のみならず様々な社会人との関わりがあり、そこで得られる学びもとても貴重なものだと思います。

特にも、「HABATAKE!黒陵」初年度の学年が、国公立大合格者数において平成始まって以来の好成績を収められたのは、本人の努力や先生方の御指導はもとより、「きたかみ世界塾」事業とともにこのプログラムが果たした役割は計り知れないものがあると思います。

見渡せば、我が黒陵の同窓生の先輩諸兄には、国内だけでなく世界中の様々な分野で活躍する方々が大勢いらっしゃるわけですが、単にそういう先輩がいるということを知るにとどまらず、自ら積極的に世界にその身を投じて得られる経験もまた貴重なものであり、それを学校に持ち帰って全体として経験や情報を共有することで、この黒陵をもう一つ上のステージに上げることも期待できるのではないかと思います。

この新たなチャレンジが成功し、子供たちが自信を持って世の中に羽ばたくことを期待すると共に、我々PTA としても可能な限り支援していきたいと思います。

「D J I」見学



「HABATAKE ! 黒陵」

寄附：080-2196-0590

日次	月日	都市名	時間	交通機関	行 程	食事・宿泊ホテル
1	2018年 3月11日 (月)	北上駅 東京駅 成田空港 香港空港 香港ホテル	11:29発 15:03発 18:05発 22:30着 24:00着	JR JR CX-505 専用バス	やまびこ44号にて東京駅へ (14:24着) 東京駅到着後、成田エクスプレスにて成田第二ターミナル空港へ 成田エクスプレス35号にて第二ターミナルへ (15:53着) キャセイパシフィック航空 CX505 出国手続終了後、搭乗。 香港空港へ (飛行時間：約5時間/時差：-1時間) 中国(香港)入国後、ホテルへ ホテル ニーナ コンベンションセンター Hotel Nina convention Centre	昼食：× 夕食：機内
2	3月12日 (月)	香 港 深 圳	午前 午後	専用車	香港から貸切バスにて中區(深セン)へ (所要時間：約3時間) 9:00 11:50~12:40 13:00~17:00 17:00~17:40 18:00 香港 テクノセンター(昼食)研修(夕食) ホテル ワイニンターナショナルホテル Shenzhen Guanlan Guangzhou Hotel	朝食：ホテル 昼食：(センター) 夕食：(センター)
3	3月13日 (火)	深 圳	終 日	専用車	9:00 9:30~16:30 17:00~17:40 18:00 ホテル テクノセンター研修(夕食) ホテル	朝食：(ホテル) 昼食：(センター) 夕食：(センター)
4	3月14日 (水)	深 圳	終 日	専用車	9:00 9:30~16:30 18:00 ホテル 深圳地区研修 ホテル センチュリー プラザ ホテル Shenzhen Taohu Century Plaza Hotel	朝食：(ホテル) 昼食：レストラン 夕食：レストラン
5	3月15日 (木)	深 圳	終 日	専用車	9:00 10:00~13:30 17:30~18:30 19:00 ホテル 深圳の大学・企業見学(夕食) ホテル	朝食：ホテル 昼食：レストラン 夕食：レストラン
6	3月16日 (金)	深 圳 香 港	午 前 午 後	専用車	ホテル9:00 香港 (深圳)から貸切バスにて香港へ(時間：約3時間) 香港研修(「カトリック・IAA」IAA 女人街・夜景他) 昼食(飯茶) 夕食(広東料理)	朝食：ホテル 昼食：レストラン 夕食：レストラン
7	3月17日 (土)	香港ホテル 香港空港 成田空港 上野駅 北上駅	7:00発 10:15発 16:42発 18:02発 20:19着	専用バス CX-520 私鉄 JR	朝食後、香港空港へ 出国手続 キャセイパシフィック航空 CX520にて成田空港へ(15:15着) 成田空港到着後、スカイライナー 38号にて上野へ(17:23着) はやぶさ107号にて北上へ	朝食：ホテル 昼食：機内 夕食：×

Copyright © TOBU TOP TOURS Co., Ltd. All Rights Reserved.

参加生徒報告書

先を見据える

私がHABATAKE!黒陵に参加したと思ったきっかけは、将来、日本だけでなく世界で働ける人材になりたいという夢があり、その夢を少しでも現実に繋がりたいと考えたからです。

そのために私がこの派遣で心がけていたことがあります。それは、いろんな人の話を聞き、沢山質問をして、考え方やどういうきっかけで海外で働こうと思ったかを聞き出すという事です。なぜなら、考え方や海外で働こうと思ったきっかけは人それぞれあって、少しでも私の夢と重なる部分、また、私の考えの至らない部分を補強し、人として大きく成長したかったから

です。

私が特に成長を感じることが出来たのは、深センにあるテクノセンターという、中国に進出したいが、どのようにしたらよいかわからない、設備などに不安がある日本の中小企業を支援するという施設での経験です。グローバル化と言われている現在の社会において、このような施設があることは日本の中小企業にとってとても画期的だと思います。そこでは、私にとって大きな人との出会いの連続でした。まずは、テクノセンターの中にある、会社の社長さんの話を聞き、その時におっしゃっていた社長さんが社員に求める人材の条件は2つあるという事でした。1つ目は「歩くのが早い人。」理由は、歩くのが早い人

は仕事が出来るという事でした。歩くのが早いということは、しっかりと目的を持っているからという事でした。そこで私は、「歩くのが遅かった人で、このことを言うて変わったと実感できた人はいますか。」と質問をしました。すると、「もともとうまくいかなかったひとも自分が何か変えてみようと思い、何かを変えることが出来たら、その時点で成長している」という返答をされ、私は何かを求める時には同時に何かを変えることが必要だと感じました。2つ目は「あいさつがしっかりとできる人。」私たちが実際にそこの工場を見学すると、中国人の社員さんたち全員は、社長さんだけでなく、ただ見学をしに来た私達にも本当に明るい笑顔で挨拶をしてくれました。その時に私は何かに気付いたと同時に急に鳥肌が立ちました。日本ではブラック企業という言葉をいたるところでよく聞きます。しかし、まず、会社全体で各個人が明確な夢や目標を持ち、社員全員がやりがいがあり、とても楽しいといえる環境作りをすることが先決ではないかという考えが自然と浮かんできました。

また、私はテクノセンターの会長ともいろんなことを話すことが出来ました。私が「世界で働くために必要なことはなんですか。」と質問をしたところ、ただ一言「勇気さえあれば何とでもなる」とおっしゃられました。たった一言だけでも、とても重く感じました。たくさん話をさせて頂いた後、最後に、「君も早く海外で働きなよ。そしていつか世界のどこかで会いましょう。」と言われ、私は心拍数が上がり、涙がこぼれそうになりました。

そんななか、仲間の1人に、不安を抱えていた人がいました。それは、派遣された仲間のほとんどと話したことがないというものでした。そこで私は何か話すきっかけを作れないかと考えながら中国の生活を送り、そうしていくうちに、周りの仲間たちは少しずつ彼に話しかけるようになりました。さらに、彼も彼自身からみんなに話しかけるようになりました。そこで私が感じたのは環境づくりの大切さ、自分に

自信を持つことの大切さ、そして笑顔の大切さです。自分が何かに挑戦したいとなった時に周りが良い雰囲気だと自然と自信がついてくるだろうし、そうすると自然と笑顔になると思います。そうすると、周りの人からも信頼を得て、また挑戦するきっかけになると思います。私はこのような雰囲気の社会になれば世界の何かが変わると考えます。このようなことを私は同世代の仲間たちから教わったような気がします。

私は今回、とても良い環境に恵まれ、素晴らしい方々との出会いに恵まれ、また、志の高い仲間たちにも恵まれる事が出来ました。私は今回中国への1週間の研修を通し、とても大きく成長することが出来ました。今回学んだ多くの事を生かし、先を見据えた行動をし、これからの社会に貢献していきたいです。

最後にこのような機会を作ってくれた方々、また支援をして下さった方々に心より感謝申し上げます。

海外派遣研修を終えて

今回、私が海外派遣研修に参加しようと思った理由は二つあります。一つ目は、自分が知らない外国に行き、視野を広げたいと思ったからです。それと同時に、今の日本の世界的な位置付けを世界基準で確かめたいという思いもありました。二つ目は、将来自分が社会科教員として子供たちに授業するとき、今回実際に経験したことを話せば、子供たちの外国に対する興味、関心を引き出すことができると思ったからです。

正直、深圳という地名はこの事業に関わったことで初めて知りました。経済特区といっても知っていたのは上海くらいで、中国の沿岸南部のことはあまりよく知りませんでした。しかし行ってみると現在の中国の中でも特に栄えているだけあって、高層ビルが立ち並ぶ近代的な街が形成され

ていました。

テクノセンターでは、たくさんの方々から海外で活躍していくための強い意志を感じました。その中でも、私が特に心に残った言葉について触れたいと思います。

*** 中国人は物の広め方がうまい、日本は売るのが下手くそ**

漢文の「矛盾」にもあるとおり、中国人はできるだけ人に買ってもらおうと度が過ぎるほどの誇張表現をします。矛盾ではそのことが話のオチとして書かれていますが、本来、物を買ってもらいたいなら、自分の物が一番だと買い手に伝えなければなりません。人口が多い中国だからこそ、人のことを押しつけてでも自分が生活していかなければならない環境で培われた力です。

*** 日本人はN oが多い**

テクノセンターでお話を伺った、株式会社「久田」の社長さんの娘さんがおっしゃっていたそうです。普段はインターナショナルスクールにかよっている娘さんが、「日本人学校だとN oが多くて息苦しいから行きたくない」と言ったそうです。これを聞いて私ははっとさせられました。確かに、「廊下は走らない」「私語をしない」など否定的なルールがあります。日本の学校との考え方の違いが垣間見えたような気がしました。

*** 世のため人のため**

D I D（第一電材）の印南さんがおっしゃっていました。第一電材とは、電線の商社（ものを仕入れて販売する会社）であり、グローバルインターンシップとして青山学院大学などからも学生を招いています。人の命を助けるものや、人の発展につながるものへ、商品を提供しているそうです。また、印南さんは、今の日本を冷静な目で見つめていました。

今の日本はどんどん人口が減少してマーケットが縮小してきている。今後、国内だけでは十分な取引ができないのは確定し

た未来だ。そこで、少子化対策や海外出身の労働者の受け入れ、移民の受け入れなども積極的に行っていかなければならないだろう。

私は、経済に関してあまり知識はありませんが、経済の面から見ても将来の日本が危機的状況にあることがわかりました。

*** 中国（深圳）の教育事情**

私は将来教師になりたいと思っていて、中国の教育制度がどのようになっているのか関心がありました。今回の研修で訪れた深圳大学は、国際的なニーズに応じて留学生を受け入れていることを知りました。また、私が一番驚いたことは、学生でも起業できるということです。実際に、ケニアからの留学生が5万元で起業したそうです。もちろん、国の援助をすべきだと認定されれば、の話ですが。中国の中でもトップクラスの大学を見学できてとても勉強になりました。

また、現地でガイドをしてくれたウォンさんによると、幼稚園に通わせるのにとってもお金がかかるそうです。ですが、小学校へ入学できるのは幼稚園を卒園した子供たちのみで、小学校は幼稚園ほどお金がかからないそうです。中学生や高校生は、より学力の高い大学に入学しようと、朝から晩まで勉強漬けの生活を送っています。ウォンさんのお子さんも勉強に励んでいると聞いて、私も頑張らなきゃいけないなと思いました。

《まとめ》

今回の研修で、今までの価値観がガラッと変わった気がします。何にでも興味、関心を持つことの素晴らしさ、大切さ。慣れていた環境から離れて、一度自分と外の世界を見つめ直す。海外へ行くという貴重な経験だったからこそ感じる事ができたのだと思います。大学へ進学したら、短期でもいいので留学して、さらに自分の視野を広げたいと思いました。そして教師として子供たちに今回の経験を話し、グローバルな考えを持つ生徒を育てていきたいと思いました。

海外交流事業を終えて

私は3月11日から17日までの1週間、「HABATAKE!黒陵」の海外派遣プログラムに参加いたしました。この1週間は、自分の知らなかったことへの驚きの連続であり、また、私の視野を広げる貴重な時間となりました。

ここで、私のプログラム参加を希望するに至った経緯や、実際に現地に行って学んだことを、簡単にではありますが、綴らせていただきます。

まず、私が今回参加を希望した理由は、自分の視野を広げる大きなチャンスだと思ったからです。私は将来、ブライダルプランナーとしてアジアの方々を中心に国際結婚のサポートをしたいと考えており、そのために、学生のうちから他国へ渡り、他国の文化や生活に触れることが大切だと考えていました。そんな私にとって、この海外派遣プログラムは絶好の機会でした。

プログラム参加にあたって、私はとにかく目に見えるすべてのものに興味を持ち、知りたいことはどんどん質問していこうと心がけていました。それは、グローバル化の進む今、他国の文化を認め合い尊重し合う姿勢が必要とされていると思ったからです。プログラムに参加したメンバー以外の黒陵生にも中国の文化を伝え、それを理解してもらうことではじめて、このプログラムは成功したといえるのだと思いました。そのためには、私自身が1つでも多くの学びを日本に持ち帰ることが必要だと考えました。

中国に行って、まず初めに思ったことは、日本で報道されている程度よりもはるかに空気はきれいで、緑も多くあるということです。日本では連日、中国の環境問題について報道されていますが、それは一部の地域に限ったことで、私たちの訪れた深センというところは、とても過ごしやすい環境でした。

私はテレビや新聞などのマスメディアで得た情報を頭に入れて中国へ渡りました

が、そこで報道と現実のギャップに気付かされることになりました。情報を耳に入れても、実際に自分の目で見ないと真実はわからない。まさに「百聞は一見にしかず」だと感じました。次にテクノセンターで中国のモノづくりを実際に見学してみても感じたことを綴ろうと思います。

私は‘made in china’の製品は、壊れやすく、日本の製品より劣っているものだと勝手な想像を抱いていました。日本には、このような考えを持つ人が少なくともいると思います。ですが、今回、企業の見学を通して日本のモノづくりを脅かす力を、中国は秘めていると感じました。中国人は、まじめで勤勉な方が多くいるとすべての企業の方々からお話をいただきました。実際に見学してみても、やはりモノづくりに向かう姿勢が熱心であると感じました。製品の品質は日本と変わるところはなく、自分が今まで抱いていた中国のモノづくりに対する偏見が恥ずかしく思えました。

これらは、今回の研修がなければ気付くことのできなかつたことかもしれません。この時、改めて自分の目で真実を確かめることの大切さに気付きました。

今回の研修で、私は多くの収穫を得ることが出来ました。一番の収穫としては、自分で確かめる前に決めつけなくなったということです。自分の目、耳、鼻、口、感覚で感じたものを信じるようになりました。

また、自分の知らない世界を積極的に知ろうという求知心が旺盛になりました。そして、自分の既存の知識が偏ったものであったかということも同時に気付くことが出来ました。グローバルな社会に対応できる人間になるためには、いち早く偏見を捨てていかなければならないと、この研修で知ることが出来ました。

今回このような素敵な経験が出来たのは、同窓会の方々、保護者の方々、その他多くの方々のご支援とご協力があったからこそだと思います。心から感謝申し上げます。

ます。本当にありがとうございます。

この経験を人生の大きな糧にし、グローバルな人材として世界に羽ばたいていけるよう、感謝を忘れずに日々精進してまいりたいと思います。
本当にありがとうございました。

海外研修を通して

私は、高校生のうちに一度海外に行ってみたいという思いから参加を決意しました。海外研修に行った目的は二つあります。一つ目は、文化の違いを実際に肌で感じることです。二つ目は、自分の視野を広げるためです。

私の中の中国は、黄砂が飛んでいて空気が悪く、少し自分勝手な人達というイメージでした。しかし、現地に着いたとき空気の悪さは感じられず、自分が思っていたものとは全然違って驚きました。

はじめに訪れた深圳テクノセンターでは、西村さんから会社の説明や深圳についてお話を伺いました。今までテクノセンターでは、中国に進出した日系企業が円滑に運営できるようにフルサポートしてきましたが、最近では会社のニーズに合わせサービスを変え主にインフラの供給をしているそうです。また、中国は日本より人件費が安いとよく言われますが年々高くなってきています。しかし、給料に対して土地代が高すぎて暮らすことが大変というのが現状です。土地は売買がつけられるため、中国では「今買わないともっと高くなる」という風潮からローンをしてでも買う人が多いそうです。さらに話の中で、土地は政府が管理していて期限があるということを初めて知りました。

次に、金型の設計など金属加工と製造をする、株式会社ヒサダを訪れました。本社は名古屋にあり 2002 年から中国で工場を開始しています。ヒサダでは下請けを行っているのですが、これは日系の企業だけ

です。理由として中国の企業は後払いだったり、考え方の違いがあるため日本に限定しているそうです。また、会社の方針は「人に喜んでもらう」です。具体的には、QCD（クオリティー、コスト、デリバリー）で、日本で沢山買ってもらえるように安いけど良いものを作ることを心がけています。さらに、説明の後は工場に行き実際に働いている様子を見学してきました。とても印象的だったのは、働いている方が笑顔であいさつをしてくれたことです。社長の久田さんによると、ここでは人間性を大事にしている、その中の一つに挨拶をすることが含まれているそうです。日本のような礼儀正しさに親近感を持ちました。また、工場では細かい部品を扱ったり組み立てなどの作業が多いのですが、働いている女性達はとても集中力が高く真面目な姿に私はとても驚きました。中国の方々は責任感が強く、仕事をきっちりこなしてくれるため、久田さんもととても助かっているそうです。

この後、第一電材にも行き、今の日本の経済についていろいろな話を聞くことができました。

他にも、今回の研修では深圳博物館や DJI にも行ってきました。まず、深圳博物館では深圳の歴史や民族文化などを見ってきました。人々の暮らしがどのように移り変わってきたのか写真や実際に展示されている物を見ながら学ぶことができました。深圳は元々何もない土地でしたが、経済特区に指定され一気に発展した都市です。「時は金なり 効率は命」という言葉があるように、ものすごい早さで建物の建設が進められました。実際に深圳の町並みは、東京よりも高いビルが沢山あります

また、DJI とはドローンを作る会社のことです。ここでは、撮影用のドローンや肥料をまくための農業用のドローンなどを開発しています。最新のドローンは人の手の動きに合わせて飛ばすことができ、最先端の技術を見ることができました。さらに、ドローンの映像を VR で楽しめることなど今まで知らなかった知識を沢山得る

ことができました。そして、少しだけでしたが VR の体験もすることができました。

また、私たちは深圳大学にも訪れました。深圳大学は、日本の東大のようにとても頭が良い学校で、学部が豊富で留学生を沢山受け入れています。昨年の留学生は 130 人ほどで、一番多いのは韓国の学生だそうです。留学について、日本の教育は世界で認められているため留学するのはとても簡単になっています。今までに留学してきた日本人学生は 40 人と少ないためほとんど留学してほしいと学長さんがおっしゃっていました。さらに、深圳大学の長所は、学生のうちに起業できるということです。起業するにあたり、大学からも支援金が出るなどとても充実した環境が作られていて驚きました。

最後に深圳と香港を訪れてみて、私は岩手や日本とは違うものを沢山見たり聞いたりしました。都市部は超高層ビルと道ばたにある沢山の自転車、でも少し離れると壁が崩れかけたマンションやボロボロの道路。貧富の差を目の当たりにしてショックを受けました。自分が外国人として中国に来て、日本で英語が通じないように、中国でもほとんど英語は通じません。しかし、看板や表示を見ると漢字や英語で書かれていて、なんとなく意味がわかることもあり言語や文化の違いをいろんな場面で体験しました。そして、これからグローバル化していく中で、英語ともう一つの言語を学ぶ重要性を感じました。外国人とコミュニケーションをとることは簡単ではないけれど、世界で通用する人になるためには大きなポイントの一つだと思います。

今回の海外研修は 10 人だけでしたが、私たちの他にも外国に興味のある黒陵生は沢山のいるはずで、より多くの生徒が海外に行くチャンスを持てるように願っています。貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました。

深圳での成長

私が今回「HABATAKE! 黒陵」に応募した当初の理由は、現在急速に発展している中国の進んだ技術を学ぶことで、将来の選択の幅を広げようと思ったからだった。しかし、この研修を通じて中国の技術だけでなくコミュニケーションの大切さも学ぶことができた。

出発する前日まで、言語の通じない異国の地での研修に不安でいっぱいだった。日本ではメディア等で中国人の悪いニュースばかり放送するため、その時の自分には中国人に対して「冷たい」「不真面目」といった悪いイメージがあり、現地ですぐコミュニケーションできるのか心配だった。しかし、実際に中国に行ってみると、中国の人は私が中国語を話せないとわかると身振り手振りで説明してくれた。困っているときは嫌な顔一つせずに助けてくれた。その時に、我々日本人が今まで持っていた中国人に対するイメージは間違っていて、中国人は日本人と同様に親切であると感じた。それだけではない。日本人は街で出会った外国人に話しかけられたときに会話を拒絶しがちだが、中国人は、たとえば言葉が分からなくてもどうにか相手の言いたいことを理解しようとしていた。彼らは、親切なだけでなくコミュニケーション能力も高く、どんな相手にも積極的に会話ができるのだ。

深圳でもう一つ学んだことがある。それは、中国製品は品質が悪いという考えはもう古いということだ。中国はここ数年で急速な発展を続けていて、今も発展している。確かに数年前には品質の良くない大量生産の時代があったかもしれない。しかし、それも昔の話、今は中国製も日本製と同じくらい品質が良く、しかも日本製よりも安い。今話題のドローンは、その生産の 9 割以上が中国製で、今回の研修でも中国の大手企業である「DJI」を見学したが、手のひらに乗るほど小型なものや、人の手の動きをカメラで検知して操作するものなど、驚くべき技術だった。今までは中国

が日本製を真似していたが、これからは「中国を真似する時代」なのだということを改めて実感することができた。

私はもともと、人とコミュニケーションをとるのが苦手で、初対面の人に積極的に話しかけることができなかつた。しかし、今回の研修でたくさんの中国の人たちと出会って、仲間たちと共に中国の人たちと交流することで、たとえば言葉が通じなくても、消極的にならずに自分から話しかける自信が持てるようになったと感じた。さらに、一部のメディアが報じるニュースを鵜呑みにして「中国人って…」と決めつけてコミュニケーションを拒むのは日本人特有の悪い癖であると学んだ。

私は今回、日本語の通じない海外で研修したことで、偏見を持たずに相手とコミュニケーションをとることの大切さを学ぶことができた。また、日本と文化も考え方も違う国で一週間生活することで、今まで当たり前だと考えていたことが、海外では当たり前ではないのだとわかった。私はこの研修で自分を変えることができた。ぜひ、日本のたくさんの人に海外に行き、自分の目で見て、自分を良い方向に変えてほしい。最後に、今回このような機会を与えてくださった同窓会の先輩方、先生方、そして両親に感謝します。

実際に中国に行ってみて

私は中国とはどのようなところなのかを知るために「HABATAKE!黒陵」に参加しました。日頃から中国については悪いニュースが報道され、周りの人々も中国にはあまり良いイメージが無いようでした。しかし私は中国が本当に悪い国なのか疑問で、一度でいいからいつか実際に行き、自分の目で見て判断したいと思っていました。そのようなときにこのような事業があるという事を教えてもらい、参加したいと思いました。

日本から香港に行き、そこから中国に入

国しました。滞在期間のほとんどを深圳ですごしました。深圳は車線が日本とは違い、右側通行でした。しかし香港は日本と同じく左側通行でした。また、香港も深圳も、地震が起こらない地域ゆえに高層ビルがたくさん建っていました。それらに夜遅くまで明かりが点いていたので夜景がとても綺麗でした。滞在したのは3月中旬でしたが、半そででも問題ないほど気温が高かったです。

主な目的である研修で深圳テクノセンターの中のある企業の方のお話を聞かせていただいたときの、「何をするのにも一番大事なのは人間関係や信頼関係を築くこと。」という内容の言葉が一番心に残っています。そのあとでその方の企業で作ったものは今まで不良品を出したことがないと聞いて、とても納得しました。きっと人間関係に重きを置く考え方だから成功したのだと思いました。私も日常生活で、効率などよりも人間関係を大事にしていきたいと思いました。また、その方は中国について「人が50倍もいれば良い奴も悪い奴も50倍ずついる」と仰っていて、それがとても腑に落ちました。

食事はほとんど中国料理でした。どれもたくさんの量が出てきて食べきれぬのが不安になりましたが、マナーとして少し残すことがお腹いっぱいという意味になり、食べきってしまうと失礼にあたることもあると聞き、日本とは考え方がまったく違うと感じました。夕食で一度、四川料理を食べることになったのですが思っていたよりも辛く、何も食べることができませんでした。しかし、添乗員の方とガイドの方がお店の方に辛くない料理を頼んでくださり、とてもおいしい炒飯を食べることができました。

実際に中国に行って、嫌なことはなにも起こりませんでした。それどころか、とても良くしてもらいました。今まで中国の悪いことばかりを流していたニュースは偏向報道なのだとわかりました。中国が悪いイメージを持たれていることが悔しいと思うので、両親や友人達に中国で良くして

もらったことや楽しかったことをたくさん話しました。何か物事を見定めるときはメディアや周りの考えに流されず、実際に自分で経験してみることがとても大切だとわかりました。これからも今回得た行動力を糧にして世界に羽ばたきたいです。

中国を訪れて

私は、3月11日から18日までの間「HABATAKE!黒陵」の研修で、中国の香港と深圳に行き、大学や企業見学をしてきました。この一週間は、普段、日本にいただけでは体験できない様々な経験をし、海外に目を向けることの大切さを学ぶことができました。

私がこの研修に参加したいと思った理由は2つあります。1つ目は、私は社会科の教師になることを将来の目標にしており、授業で教えるような海外の文化や風土を実際に見て、生徒たちに教えたいと考えていたからです。2つ目の理由は、私は日本史が好きで、高度経済成長期のような発展を続ける中国をじかに感じて、歴史を直に感じたかったからです。

3月11日の朝に北上駅から東京へ向かい、午後10時ころに、香港の空港に到着しました。香港の空港はとても広く、空港内に電車が通っていたり、鳥が飛んでいたりと、「もうここは日本ではない」ということを初めて感じました。街並みも東京でも見られないような高層ビルが立ち並びより一層異国の地にいるということを感じました。バスで2時間ほどかけてホテルに着きました。ホテルのフロントに入り、疑問に思うことがありました。ホテルのエレベーターの1階の表記が「1」ではなく、「G」だったことです。私は、イギリスでは1階が Ground Floor、2階が First floor、3階が Second Floor というように、階数の考え方が日本とは違うということを知っていました。しかし、ここ

は中国で、イギリスではありません。そのような疑問を持ちながら、1日目は終わりました。

3月12日～13日の2日間は「テクノセンター」に企業見学をしに行きました。そこで知ることができたのは、私の志望理由の1つでもある中国の発展の歴史です。テクノセンターは、日本の中小企業の中国進出をサポートするために建てられた施設です。現在では、宿舎、食事や医療などの労務支援や上下水道や空調などのインフラ供給を労働者のために行い、宿舎の家賃で利益を得ています。

私がテクノセンターで学んだことは2つあります。

1つ目は「株式会社ヒサダ」さんのお話です。そこでは QCD (クオリティー コスト 指定日納入) を意識して、仕事に取り組んでいます。そのためには、「あいさつができること」と「歩くのが早いこと」の2つを会社の方針にして、この二つをできる人が仕事ができる人としているそうです。「あいさつができる」は、気持ちがよく、相手も自分もいい気持ちになるから。「歩くのがはやいこと」は目的に向かって歩くと早く歩けるので、仕事も早くなるから。という理由で方針にしているそうです。とくに2つ目の「あるくのがはやい」と仕事ができるという考えは、今まで聞いたことがなく、決めたらすぐにやることやチャレンジ精神にもつながると感じたので、実践してみたいと思いました。

2つ目は、「DID」さんのお話です。今回の研修でこのお話が最も衝撃を受けました。それは、「日本はもう衰退の未来しかなく、英語はもちろん、スペイン語や中国語などを含め三か国語以上の語学力が当たり前の世の中になっていく」というものでした。なぜ日本が衰退の未来しかないのかは、「日本は少子高齢化が進んでおり、労働者階級の減少が著しい。労働者階級の減少は、そのまま国力の低下につながるため、日本は移民政策などを取り入れない限りは、自国での経済発展は、難しい」とい

うものでした。私は今まで、英語ができ、いい会社に入ればよいと本気で考えていました。しかし実際に、中国の町で、現地の人と会話をしてみると、英語は通じませんでした。ここで初めて、英語は完全ではないということを知り、感じました。また、東芝やシャープの事業縮小など、大企業でも将来安泰とはいかない社会となっています。そのため、まず、大学進学後は、複数の言語を学び、就職を日本国内だけでなく、海外にも目を向け、起業することも視野に入れたいと考えています。

3月14日は深圳市の博物館や民俗村に行きました。博物館で、印象に残ったことは、深圳の発展のスピードです。出国前に情報は知っていましたが、実際に、昔の市の街並みや、風景の写真やモデルを見ると、たった数十年前とは思えないほど田舎で、現在の姿とはまったく違ったものでした。ここまで進化を遂げていて、さらに終わりが見えない中国の発展で、より日本に居続けることへの危機感が強まりました。

民俗村では、中国の文化に直接触れることができました。日本では見られない独特の文化を体験することができました。私が特に、独特と感じたのは、食事の仕方です。四川料理では、食べる前の儀式として、食器をお茶で洗います。お茶で清めるという考え方は、日本にはあまりないと思うので、新鮮でした。

3月15日は深圳大学を訪れました。深圳大学は、オバマ前大統領の弟も在籍していた、中国内で最もエンジニアを輩出している大学です。そこで感じたのは、日本と海外の考え方の違いです。深圳大学で生徒に求めていることは、①健康であること②高校を卒業していることの二つだけだそうです。そこで感じたのは、日本では、偏差値の高い良い大学に入り、知名度の高い良い企業に入ることが、いいこととされています。しかし海外は違っていて、大学では、何を学び、どう行動するか。社会に出

てからは、どう自分をアピールし、自分で会社を起業することに重点を置いています。大学生で起業する人も数多くいるそうです。この差が、日本と海外との差をどんどん広げていってる原因であると感じました。グローバル化がどんどん進んでいく中で、日本のように、受動的で、ゴールが偏っている現状が本当に正しいのでしょうか。日本はさらに変わっていかねばならないと強く感じました。

3月16日の香港観光のバスのガイドのお話で、最初の疑問を解決することができました。香港はもともとイギリスの統治下にあったそうです。これによって、なぜ香港で英語が通じるのか、またなぜホテルの1階が「G」の表記だったのかが分かりました。

13年前の2005年。中国人は戦後間もない日本のように、街頭でテレビを見ていました。町の治安は悪く、買い物も安心してできなかったといいます。しかし現在の中国はGDPがアジア最大となり、スマートフォンなどの電子機器も一人一台が普通となっています。日本人が中国人と聞くと、爆買いや尖閣諸島の問題など「自分勝手」という悪いイメージが大きいと思います。では、なぜ中国はそのようなイメージがついてしまったのか。その理由は、日本のメディアの影響です。中国には10億人以上の人がいます。そのため当然いい人もいれば、悪い人もいます。それを利用して、悪いところだけを映し出し、これが中国人そのものであるかのように報道するメディアが大きな理由の一つです。

もう一つの理由としては、中国がこのような発展を遂げたのとの関係があるそうです。中国は、東南アジアや南アジア、東アジアなど、さまざまな国々と接しています。また海と接している面積も広く、昔から多くの国々と貿易を続けてきたため、人種的に交渉が上手です。さらに中国は、人口もとても多く、日本のように平等にみんな分け合うということには、いかなかった

たそうです。そのため競争心が強く、どうしても他の国の人から見ると、自分勝手に見えてしまうことがあり、それが悪いイメージにつながっているそうです。しかし、そのことを知っている日本人はどれくらいいるのでしょうか。どうしてそのようなことになっているのか。それを知るための手掛かりとして「歴史」は非常に有効であるということを知った。今回の研修で強く認識しました。日本がアメリカを追い越したように、確実に中国や東南アジアの国々が日本を追い越す日がやってきます。しかし、そこで悲観的になるのではなく、アメリカがまた、復活したように、落ち着いて、日本人としてどう行動していくかが、私たち若者がこれから求められていくことだと思います。今回の研修を通して、文化を学ぶという最初の目標のほかに、中国という他の立場から、日本を見つめなおすという貴重な経験をすることができました。

最後に、PTA や同窓会、地域の方々の協力があって、このような体験をすることができました。この経験を、今後の生活や進路達成に役立てていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

初の海外研修

私は今回「HABATAKE!黒陵」第2回のメンバーとして中国の深圳と香港に行ってきました。そこで日本にいただけでは想像することも無かった貴重な大切な経験をすることができました。また、改めてニュースや新聞などで見聞きしたことだけが全てではない「百聞は一見に如かず」ということを痛感しました。私が知ったことは中国のほんの一部にすぎませんが学んだこと経験したことをこのレポートにまとめたいと思えます。

まず、テクノセンターについてです。テクノセンターは海外進出を容易にできない中小企業の中国進出をサポートするために設立されました。では、なぜ中小企業

が海外進出をしなければならないのでしょうか。それは、急速な円高、日本国内市場の縮小、アジア新興国市場の拡大に伴い、企業の海外生産が進んでいて、海外進出の検討を余儀なくされているからです。それではテクノセンターが具体的にどんなサポートをしているのか、大まかに分けると、輸出入支援、インフラ供給、労務支援、駐在員支援の4つです。そして、そのサービスはニーズによって変わり柔軟に対応できるようになっています。これだけだとただの企業紹介になってしまいますがこのすごい所は日本人社員がほとんどいない中でもしっかりとコミュニケーションと対応ができているということです。話す言語がまばらでもしっかりと働けるこの時点で私はとてもすごいと感じました。このテクノセンターに入っているのは現在約20社で独立した、出て行った企業も含めると約100社です。私はその中で3つの企業を見学させていただきました。そこでは様々な国の人々が不良品を作らないよう日夜頑張り、自分の仕事に責任をもち終わるまでは残ってやるという風にとっても責任感が強く誠実だということも分かりました。しかし、まだ中国企業には契約書が適当でお金も払わない所もあるらしいので日本企業の仕事のみを受けている企業もありました。企業見学を通して私は現状を把握し問題から目を反らさずにビジョンを持って行動することが必要となり、その行動は早いほうがなおさら良いということ学びました。日本の企業見学では学ぶことができない特別な体験ができここで中国のイメージもガラリと変わりました。

次に世界で最近話題になっているドローンの会社 DJI を見てきました。そこには様々な最先端の技術が使われたドローンがたくさんあり中国の技術が最先端だということが実感できました。今まで日本の技術も結構進んでいるとは思っていましたがこの会社を見て正直に言うと日本があまり発展していないように思っています。日本は確かにこれから危なくなっ

しまうということに否定を自信をもって言うことができなくなりました。しかし、それとは逆にそのような会社で働き新しいものの開発をしたいという気持ちも湧いてきました。

その後、深圳大学と呼ばれるとても大きな大学を見てきました。この大学は深圳と共に成長してきました。敷地面積や在校生はとても多く学生の中には多くの留学生もその大学で学んでおり、大学側もそんな留学生を待っていると仰っていました。学費は日本とそれほど変わらず、国からも資金援助されるということで在学中の留学生の起業が盛んだということがわかりました。その一方で日本人留学生が起業するということは少なくそこにも日本と中国いや世界との差があると感じました。そんな中、この大学は日本人留学生への待遇がとても良く合格率は日本人特別でほとんど100%だそうです。国からの多大な資金援助を受けながら世界中から留学生を受け入れさらに入学した人たちはそれぞれで新しい企業を設立していく。こんなことがあるならば逆に技術発展しないほうが可笑的いでしょう。そこで私は中国深圳の成長してきた理由を垣間見ることができたと思います。

あまり要点を絞れずに長々と書いてしまいましたが最後のまとめとして、私がこの研修に参加を希望した理由は自分の将来に自信がもてず、本当に今自分がやりたいと思っていること以外のことを知らなくても良いのか、視野を広げず1点だけを見ていて良いのかと不安になったからです。しかし、この研修が終わり日本に帰って来たとき今まで自分が考えてこなかった分野に興味湧き不思議とやってみたくて思いました。また、マスメディアからは危ない、汚い、パクリ商品などの中国の悪い部分ばかりが報じられてきました。確かにそれらが全く違うとは言いません。今回の研修でそこら辺の部分を感じることもありました。しかし、それらは日本に無いと言えるのでしょうか？中国は日本と比べものにならないく

らい大きく人口も多いです。では、その分犯罪が増えるのは必然ではないでしょうか。私たちが持っている中国人のイメージそれは中国人の一部であり今回触れ合ってきた人たちは皆優しくて、勤勉で、責任感が強く、今まで持っていたイメージを覆すのに十分足りえました。日本でどれだけ偏った情報だけが流され、中国がどれだけ現在進行形で技術が発展しているのか、そしてそれを未来の私たちはどう乗り越えていくのか。現在の状況とこれからの未来どうするべきか、よく学ぶことができそして考えさせられました。今回の研修で学んだことをこれからの進路、できることなら日本にも役立てるように、歩みを止めずに日々この経験を生かして学習に励みたいと思います。

本当に最後になりますが、この企画を計画、実行し、そのための費用を出して下さいの皆様、本当にありがとうございました。そして、このレポートにまとめたことは本当に極一部でしかありません。なので、一度自分の目で中国の現状を見て先入観をなくし良いイメージを新たに持っていただけると幸いです。

はばたいてみて感じたこと

今回私が「HABATAKE! 黒陵」に応募した一番の理由は実際に世界の様子を自分の目で見て世界に通用する人になりたいと感じたからです。参加する前は、グローバルな人材が求められる中、具体的に自分がどのようなモチベーションを持ち、日ごろからどのような努力をするべきなのか分かりませんでした。しかし、参加してみて「私は世界に出て働くのだ!」という意識を持ち、世界の情報に常に目を向けるべきだと感じました。

皆さんは「中国」と聞いてどのような事を思い浮かべるでしょうか。ニュースなどを見て、空気が汚い、マナーが悪い、すぐ真似をするなどマイナスのイメージが強

いと思います。そして結果中国の方々を下に見てしまうことがあると思います。確かにそのような一面も実際にはあるのかもしれませんが。しかし今回の研修を通して日本のメディアを疑いたくなるほど、たくさん中国の良いところを見たり聞いたりすることができました。

今回の研修で印象に残ったことをピックアップしたいと思います。

株式会社ヒサダでは社長の久田さんからお話を頂き、工場見学もさせて頂きました。久田さんのお話で心に残ったことは3つあります。1つ目は挨拶が大切だということです。国が違っても、挨拶がコミュニケーションをとるための第一歩だということを再確認しました。2つ目は中国の方はルールを決めれば絶対に守るなど責任感が強いということです。工場見学の際実際に社内のルールをいくつか教えて頂きました。3つ目は文化・考え方の違いは我慢して良いこともあるということです。自分の常識と違うことを楽しむという広い心が必要だと感じました。

第一電材では現状を把握すること、問題から目をそらさないということ、ビジョンを持つこと、夢や目標をもつことの4つが必要だと教わりました。世のため人のために行動するために必要不可欠なこの4つを大切に生きていきたいと思いました。

街を歩いたり、お店を見たりしているときは中国の方々の優しさを感じました。とてもフレンドリーな方が多く、会話がうまくできないときはスマートフォンなどを使って話してくれました。「中国は人口が多いので、悪い人が日本の何倍もいるかもしれないけれど、反対を言えば何倍もいい人がいる」と研修先の方々がおっしゃっていました。実際に街に出ることでそれを実感することができました。

私はこの研修を通して世界で通用する人間になりたい、そして、自分の目で世界の様子をもっと見たいと感じました。参加する前と参加した後では180度もの見方が変わったと思います。もっと多くの方々

に挑戦していただきたいです。中国に抵抗を示す方もいると思いますが、「百聞は一見に如かず」なので一度行ってみたいと思います。なぜ中国が研修先なのか納得できるはずです！

最後に協力して頂いた皆様に感謝申し上げます。

中国の現状

私は将来世界で働きたいと考えています。いま世界の中心である中国を実際に見ることはこれから世界で活躍して働く時に役にたつと思い、参加しました。

初めにテクノセンターで働いている西村さんに話を聞きました。そこで、テクノセンターと中国について話を聞きました。テクノセンターは香港の会社で、日本の中小企業の中国進出をサポートする会社です。テクノセンターはインフラ設備や就業ビザ手続きなど企業のサポートをしています。企業ができないことだけを手伝えるので、企業によってサービスの形は様々です。ストライキなどの問題には中国政府からの支援が取れるような体制になっています。しかし、お金を貸すことと物を作ることはできません。テクノセンターのような会社があると中国や世界に日本の企業が進出しやすくなって、日本ももっと活気強くなると思います。

今の中国を一言でいうと日本のバブルです。たった5年前の話も古い話になるくらいどんどん新しくなっています。また、外国との関わりを持たないで欲しいからLINEなどのSNSも使えなくなっています。さらに、インターネットの検索にはNGワードもあるようです。日本に住んでいたならこんなこと考えられないので、とても衝撃を受けました。また、中国の社会保障の仕組みを聞き、日本は本当に恵まれている国だと実感しました。日本では病院に行けばどんな人でも医療を受けられる仕組みになっています。しかし、中国では最

初にお金を払わないと医療を受けられない仕組みになっています。たとえ難病で苦しんでいる子供が入院していても、お金がない人は治療してもらえないのが中国の現状です。世界にはこのような国がたくさんあると聞き、心が痛くなりました。

次に久田さんにお話を伺いました。久田さんは0から始めたいと思ったから機械1つと社員1人で中国にきたそうです。NHKのクローズアップ現代という番組にも特集を組まれるほどすごい会社です。久田さんの会社では挨拶をととても大切にしています。実際に工場内を見学させてもらった時にも社員の皆さんが笑顔で気持ちのいい挨拶をしてくれました。久田さんは歩くのが早い人は仕事ができると考えています。それはなぜかという、歩くのが早い人は目的に向かってまっすぐ進むからだそうです。意識をして早く歩くことから始めるのもいいそうなので、これから実践してみようと思います。久田さんは私たちに行動した後悔より行動しない後悔の方が奥が深いということを教えてくれました。だからまず、挑戦することが大切な事を教えてくれました。私もまず挑戦をしていきたいです。さらに、中国人は悪い人が多いという人もいるが、それは日本より人が多いからだそうです。人が多い分日本よりも悪い人もいるそうです。私も中国に行く前は悪いイメージも多かったです。しかし、日本よりいい人も多いそうです。日本にだって悪い人はいます。いい人もいます。中国人だからと先入観を持つのではなく、その人自身を見たいと思いました。

最後に第一電材の印南さんにお話を聞きました。この会社は、電線などを作っている会社です。世のため人のためをモットーにしているのでパチンコや核兵器のためには絶対に使わないそうです。わたしは今回の研修を通して、印南さんの日本の危機についての話が一番印象に残りました。日本は少子高齢化で人口がこれからもどんどん減っていくのは予想ではなくて確定している事です。そのため、日本のマーケットもどんどん小さくなっていきます。

だから、日本だけで売っていたらどんどんマーケットは小さくなっていくばかりで、世界を視野に物を売っていかないといけなくなります。働く人も減少しているため、海外労働者の受け入れや移民の受け入れも積極的に行う必要があると思います。海外の進歩はすごく早いです。それは生産力の違いが大きいです。中国は働く人、たくさん働きたい人が多いです。それに、勤勉で自分の仕事は必ず終わらせるし責任感がとても強いです。中国、世界に勝つために日本はやらなければいけないことがたくさんあると思います。日本の品質の良さは世界でも評判が高いため、それを売りにしてこれからさらに世界を舞台にして進出していったらいいと思います。また、日本の雇用を守っていくことも大切だと思います。

今回の研修を通して視野がとても広がりました。世界でも最先端を走っている中国の深センに今いくことができ本当に良かったと思います。これからは今まで以上にグローバル化が強さを増していくと思います。その時に今回の研修が絶対に役にたつと思います。自分の武器を作り、それを磨いて世界中の人に負けないようにしたいです。また、英語を武器にできるように今から勉強を頑張りたいです。さらに、今回一緒に参加した人たちと出会えたことも本当に嬉しく思います。それぞれ将来の夢は違うけれど海外を視野に入れている仲間がいる幸せを感じました。将来について深く語る仲間がいることでさらに努力をしたいと思えました。

私は将来シンガポールで日本のこと、世界のことを正確に伝え、生徒の夢を全力で応援する日本人学校の先生、インターナショナルスクールの先生になりたいです。努力と笑顔を忘れず、夢に向かって走っていきます。

このように中国に行き、貴重な体験ができたのも同窓生の皆様のおかげです。私たちの海外派遣に協力して下さりありがとうございます。絶対、将来に生かします。誠にありがとうございました。

寄付者名簿（敬称略）

平成 30 年 3 月 21 日現在

同窓会総会（菊池隆 佐藤タイ 藤代博之 伊藤彬 佐藤菜美 片方康晴 川村庸子
 佐々木享） 盛岡黒陵会 黒北 4 5 回生 第 48 回生黒陵会 同窓会市役所分会
 東英夫 阿部榮夫 阿部悟 阿部修治 安部彦満 阿部浩朗 阿部博典 阿部豊
 有馬勝則 安藤利勝 安保訓子 安保コト 飯盛孝志 石川敬太 石川秀司 石母田清子
 泉館敦 泉山愛子 板宮成悦 市川園子 伊藤彬 伊藤雄康 伊藤勝彦 伊藤甚八
 伊藤右佳 白井ちさと 梅原孝 江釣子卓也 遠藤忍 及川三郎 及川総司 及川達彦
 及川達也 及川直孝 及川政己 及川優 及川宗享 及川量平 及川礼子
 大園（亀丸）伸子 大友八千代 大庭典哉 大山孝詞 奥山（菊池）紀子 押切秀一
 小田島清博 小田島国郎 小田島秀一 小田島晴教 小田島正明 小田島光子
 小田島幸雄 織田未央 鬼柳攻 小野寺信幸 小原磯則 小原薫 小原欣哉 小原繁
 小原誠市 小原朋子 小原寛 小原善則 小原芳郎 小山仁 小山隆 小山雄士
 柿澤瑞生 片方威 桂松香 門脇重登 金原良史 鎌田龍児 鎌田龍児 芳野重
 加留部政子 川村耕 川村庸子 川村庸子 菅野光雄 上原耕太郎 菊池イツ子
 菊池征子 菊池崇 菊池隆 菊池恒男 菊池浩 菊池励一 城戸英夫 城戸良公
 城戸良公 木村正智 金田一叶 久保順子 熊谷隆 熊谷健 桑原啓 郡司泰男
 後藤正夫 後藤雄四郎 小松江利子 昆憲治 今野國夫 昆野澄夫 紺野靖恒 斉藤敦子
 斉藤智 斎藤次彦 斎藤日易 酒井康雄 坂本由喜子 佐々木恭基 佐々木一伸
 佐々木恵子 佐々木憲信 佐々木隆 佐々木享 佐々木正幸 佐藤和広 佐藤穰治
 佐藤タイ 佐藤隆夫 佐藤武彦 佐藤ノリ子 佐藤博信 佐藤朗 佐藤美奈子 佐藤攸子
 澤田育生 司東礼津子 清水幾太郎 庄司博 白川英里子 菅沼睦子 菅原新悦 菅原孝
 菅原弘子 菅原洋一 菅原義行 菅原隆治 鈴木健策 鈴木正朝 鈴木洋一 住友とみ子
 高杉莉代 高橋育郎 高橋一郎 高橋和彦 高橋景子 高橋研也 高橋里永子 高橋悟
 高橋寿一 高橋俊 高橋卓也 高橋義柄 高橋忠利 高橋忠徳 高橋輝夫 高橋徹
 高橋富男 高橋智宏 高橋伸彦 高橋英明 高橋英夫・廣子 高橋昌男 高橋正助
 高橋召 高橋康文 高橋唯 高橋良和 高橋義和 高橋由蔵 高橋捷友 竹田登代子
 武田勝 武田美奈子 多田和広 多田司 立花勇藏 谷藤豊子 田村和子 田村米雄
 千田有子 千田健生 千田敏夫 千田典男 千田隆司 千葉一矢 千葉胤行 千葉哲
 千葉尚 千葉博子 辻市雄幸 坪田美恵子 寺田（柴田）喜久子 照井一彦 照井隆夫 豊
 田悦子 内記孝洋 中込昭弘 中嶋富佐子 長野重樹 沼田陽子 野崎好治
 野里由紀子 野原修一 灰原宇多子 長谷川玄也 畠山宏道 平野正 平野哲夫
 平野モリ子 平野良夫 深澤千里 深澤寿比古 布佐公良 藤代博之 藤原榮 藤原義延
 古川純平 戸来章 前田征子 前田益生 松本貴之 松本敏宏 松本宏之 松本美由紀
 三田哲雄 三田紀房 南川昌光 宮川キタ 盛田洋太郎 八重樫則実 八重樫孝志
 八重樫輝男 八重樫成子 八重樫裕司 八木美紀子 山崎映子 山崎佐和子 山谷健一
 遊佐ヒゲ子 遊佐誠 遊佐誠道 吉田吉明 吉田芳男 吉津哲夫 渡邊和泰 渡邊直子
 和野内清彦 黒北 P T A

（3 / 2 2 ~ 4 / 2 6 の寄付者名簿 - 平成 30 年度の会計に入れます）

早坂八郎 及川政直 野崎好治

研修風景



(於：テクノセンター)



(於：東京彫刻工業株式会社)



(於：久田有限公司)



(於：オプティロム)



(四川料理の昼食 オプティロムの石井社長にごちそうになりました。)



(於：第一電材 岩谷堂にも支店あり)



(於：D J I)



(於：深圳大学)